

1 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 伊那市の位置する伊那谷地域は製造業等が盛んであり、多くの外国人労働者が居住していることから、平時においても外国籍住民との交流や協働が求められている地域である。
- 市役所での登録手続きや申請のために通訳を配置しているほか、災害時の通訳ボランティアの育成等を検討してきた。
- しかし、そもそも外国籍住民自身への防災リテラシー・意識向上を図る取組が出来ていないことが、行政側と外国人支援者等との間での共通の課題となっていた。
- 市では災害時の要配慮者対策に力を入れているが、災害の多い地域で暮らすための備え（自助）と配慮すべき対象としての意識化（共助）を図りたいと考えていた。

2 取組の内容

【外国籍住民本人向け】

- 令和4年12月3日に市内でも比較的人口比率の高いブラジル国籍住民を対象に、市と伊那市社会福祉協議会等が共同で、ワークショップを含む対話型の防災講座を実施した。
- 上記は支援組織を通じて参加者を募集したが、令和5年11月25日には、市内の日本語教室と連携し、日本語教室に通う外国籍住民を対象とした防災講座を実施した。
- 両防災講座では、外国人支援者を含む約20名の受講者に「やさしい日本語」を用いた資料を説明しながら、簡単なクイズや質問を投げかけ受講者自身に防災について考えてもらった。また、伊那市で発生した実災害の事例やブラジル本国で発生した災害事例を用いるなど、具体的で現実感のあるコンテンツ作りを心掛けた。
- 次のステップとして、支援者（日本語教室講師、通訳ボランティア等）を加え、日常的な防災対策を一緒に考える講座を実施した。「支援する」「支援される」という関係でなく、共に考えることの重要性や課題の共有ができた。
- 外国籍住民を対象としたワークショップを含む対話型の防災講座は、令和5年度より3回程度の実施を標準化し、取組の継続により、外国籍住民本人への着実な防災意識の浸透・知識の向上を図っている。

外国人向け防災教育（防災講座）の様子・内容等

2023ねん
がいきくじんの みんなと
さいがいを かんがえる

- ・いなしの さいがいの ことを しる
- ・さいがいが おきたときの ことを かんがえる



2023ねん11がつ25にち
いなし さきかんりか

こまつ たけし
小松 剛

1

いなして おきる さいがい

おおあめ

じしん

さいがいから
じぶんと かぞくの
いのちを まもる ほうほうを しる




4

ハザードマップを みたことは ありますか？

どんな ないようが
かいて ありますか？



伊那 防災

伊那市 防災ハンドブック

134m

三義運動場

久保

那木沢

新井

原

凡例

伊那市 防災ハンドブック



【周辺者向け】

- 外国籍住民自身の防災意識・知識の向上とともに、外国籍住民を支える地域の防災力の向上が重要であるため、令和6年3月8日に市民や外国人支援者や外国籍住民を雇用している企業等を対象に、地域防災の有識者を招いた多文化共生災害支援セミナーを実施した。

3 取組と地域計画の関係

【地域計画における記載】

起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）

・避難勧告※、指示の判断の遅れや情報伝達手段の不備に伴う避難の遅れによる死傷者の発生 ※原文ママ

脆弱性評価の結果

地域による防災体制の構築には、自主防災組織による実践的な活動ができる体制づくりとコミュニティの重要性や自助・共助による防災意識の啓発が必要

4 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- これまで外国人籍の方へ防災のアプローチがなく、災害や避難行動への理解度や危機感等を知ることがなかった。学習会や意見交換を重ねることで、取組むべき内容が明確になっていく。（職員）
- 災害のことを知らなかった。避難場所や備えの必要性が良く分かった。（参加者）
- 自助の強化を図ることで、連絡がすぐに取れなくても、自身の判断で安全確保ができると良い。（企業）

5 今後の展開予定

【取組の今後の予定】

- 本取組は端緒に付いたばかりであり、今後も市・社会福祉協議会・外国人支援者等が連携して取組の定着を図っていく。
- 市、社会福祉協議会による外国人防災検討チームを構成し、アウトリーチを含めた具体的な取組を始めたところであり、より一層外国籍住民への防災上のアプローチを充実させていく。
- 市民を含む支援者向け研修会を定期的開催し、地域全体で要配慮者支援の意識の醸成を図り、互いが歩み寄りやすい環境を作っていく。

【地域計画の今後の予定】

- これまで外国籍住民の防災意識向上を図る取組は明確ではなかったが、明記していく方針である。